

エネルギー×課題解決の親子講座

未来の環境リーダーを育む！

これからの環境のことを考えるうえで、「エネルギー」は欠かせないテーマです。このたび、電動モビリティのバッテリーを開発するプライムプラネットエナジー＆ソリューションズ株式会社（以下P P E S）とJ E E Fが協働で、体験を通して、省エネや節電について考える親子講座を実施しました。

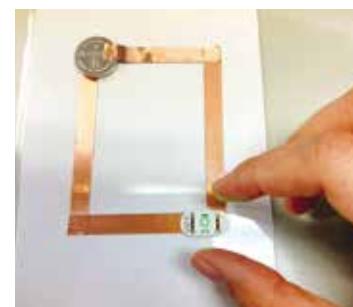
エネルギーについて学び考える、夏休みイベントを開催！

もあります。だからこそ、
身近に感じてほしい——子ども
たち自身が実際に自分の手で電
気につれ、電気を自由に扱う体
験を提供しました。ただ知識を

「1個のコイン電池で、4つの
LEDをつけるには、どうした
らしいだろう？」

「LEDの置き方で、必要な
電池の個数が変わってくる！」

初めて電気について学ぶという
子でも、自分の手であれこれ試
すうちに、電気回路の仕組みに
気づいていくようでした。



工作するみたいに簡単に回路を作れます。

今回の舞台は、P P E Sの関
西本社がある兵庫県加西市。「か
けがえのない地球 クリーンで
豊かな社会を未来へ。」という
P P E Sのビジョンのもと、楽
しみながら、「電気」について学
び、考えるワークショップを開催
しました。対象は、環境につい
て学び始めた小学校4年生～6
年生の親子。J E E F内にある
EL M Sセンターが、プログラム
開発と実施を担当しました。

電気は日々の暮らしに欠かせ
ない存在ですが、子どもたちに
とっては、その身近さゆえに、
意外と意識がされにくいもので

自由に探究！ 触って学ぶ、電気の仕組み

あります。

子どもたちの育成を目指してい
ます。

シンプルな回路の作り方だけ
を伝えたら、あとは子どもたち
が自分で探究する時間！ LED
の数を増やしてみたり、電池や
テープの位置を組み替えてみた
り、やってみたいと思つたことを、
思い思いに試していきます。



エネルギーを 効率的に使った作品作り



集中して、自分のこだわりを形にしていきます。

そして、電気に慣れ親しんだ子たちが取り組む次のミッションは、「より少ない電池の数で、たくさんの中LEDライトを灯せる、オリジナルの回路」をつくること！

決まった正解がない中、限られた電池、限られた素材を前にして、子どもたちは真剣そのもの。節電や省エネの考え方を自然に体験しながら、作品を作っていました。

素敵なのは、一人ひとりが、たまたま同じく力強さを感じました。

子たちが取り組む次のミッションは、「より少ない電池の数で、たくさんの中LEDライトを灯せる、オリジナルの回路」をつくること！

限られたエネルギーを、私たちの暮らしのためにどう使うか考えることも、きっと同じです。子どもたちが胸の中に持っている、工夫することを楽しむ力や柔軟な創造力が、いつか、社会課題を解決する大きな力になる——子どもたちの探究心溢れる真剣なまなざしには、未来を切り開いて

いく力強さを感じました。

創エネや蓄エネは子どもたちにとっては身近ではないかも知れませんが、省エネであれば、電気をこまめに消したり、フードロスを減らしたり、ごみを分別したりといったことから始めていけます。家の中での小さなアクション一つ二つが、社会全体でエネルギーを無駄なく活用していくことに

木村 佳葉
(きむら かよ)

1996年横浜市生まれ。
ELMSセンター研究員。
公認心理師・臨床発達心理士。心理相談の仕事を経て、2023年より現職。学ぶことの楽しさがたくさんの子どもたちに届きますように!と思いながら、体験の場づくりに関わっています。

だ多くのLEDを灯すだけではなく、独創性あふれる作品を作り出していたこと！同じ条件下で

あつても、一人ひとりのアイディアが發揮されることで、異なる作品が生まれます。

ワークショップの最後には、家庭の中から始められる環境へのアクションを紹介しました。電気やエネルギーの分野で特に大切だと言わっている「創エネ・省エネ・蓄エネ」。

その後押しができるような活動を続けていきたいと思つています。

わたしたちの暮らしから、未来は変えられる

繋がっていくのです。まずはそれぞの家庭で、できそなことを見つけてみるとから始めてみてほしいと伝えました。



参加者の感想

・環境のことを考えてエネルギーを作ってくれることに、エネルギーを大切にしようと思った。

・はじめての回路づくりを子どもがとても楽しそうに取り組んでいた。回路についての説明もわかりやすくてよかったです。